



【歯みがき指導：9月4日(水)】

7 月終わりの学校だよりでお伝えしましたが、第 1 回学校保健委員会で「歯みがき」が本校児童の課題であることの指摘が学校歯科医さんよりありました。(卒業児童と新入児童が入れ替わっているので単純には比較できませんが、「虫歯なし」児童が昨年より約 20 % 減になっています。) 合わせて、「歯垢・食べかす」を取り除き、歯ぐきもしっかり磨く必要のあることの指導を受けました。

これを受けて全学年が、歯科衛生士さんより、『歯ブラシの持ち方』『デンタルフロスの使い方』の指導を受け、歯みがきや歯垢・食べかすをとる活動を実際に行っていました。子どもたちは、活動を通して新たな気付きもあったのではないかと思います。大切なのは、指導事項や自ら気付いたことを毎日の歯みがきに生かし、しっかり継続し、課題解決していくことだと思います。家庭でも、学校でも頑張っていきましょう。



【校内授業研究会：9月18日(水) 大川孝子先生来校(玉川大学教育学部教育学科)】

昨年に引き続き、玉川大学の大川孝子先生においでいただき、本校の国語科の取組や授業について指導をいただきました。

(日程) 1 限：学校説明等

3 限：1・2・5・6 年・

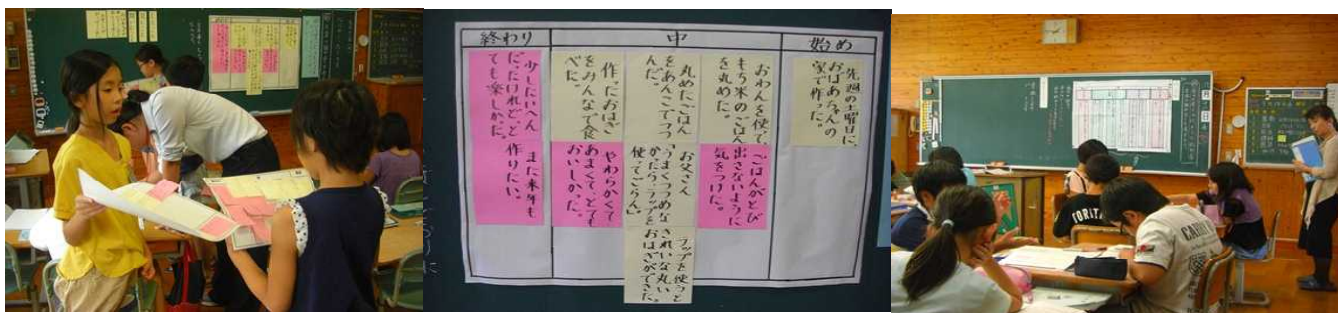
しおかぜ学級国語の授業参観

放課後：授業研究会

2 限：研究授業 3 年国語

4 限：国語科の取組について説明

5 限：研究授業「4 年国語」



<くめあて>

○本年度、本校では「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」をねらって授業研究をしています。書くことの成長が実感に伴うものとなるように考え、取組を進めています。

<大川孝子先生の指導助言より>

- ・「書くこと」の勉強を進めるのはとても難しいことですが、3・4 年生ともその授業に最初から最後までしっかりと向き合って学習を進めていました。
- ・今の国語の学習は、目的に合った形の文章を書く学習になっています。(物語、調査の報告、学級新聞、行事の案内文等) 試行錯誤しながら実際に書いていくことを繰り返すことで語彙も増えてきます。
- ・「書くこと」に興味を湧くように、例えば、「捨てられたゴミや道端の電柱の側から見て書いてみる」「桃太郎物語を鬼の立場で書いてみる」「3 日後に控えた運動会を終えたつもりで書いてみる」といった日常と異なる視点から文章を書いてみることも大切です。

書くことは生活に役立つ。記録したり、伝えたり、説明したり、励ましたり、楽しませたり、さまざまな形で、生活に役立つ……。/ 子どもの生活の中でも、書くことは大いに役立っている。手紙を書く、メモを取る……。遊びの中で役立つこともある。詩や物語を書いて……。学校生活においても、教科の学習を含む様々な場面で、書くことが役立てられている。/ 人は、生活の中で書くことを通して、書くことが役立つことを実感する。つまり、書くことの意義に気付く……

参考：『書くことの学習指導』首藤久義